

このプログラムは、見えない方、見えにくい方のために必要な説明を加えている読み上げ対応用の文字プログラムです。
表紙には、このコンサートで演奏される曲をつくった作曲家、ラフマニノフ、ドヴォルザーク、ヨハン・シュトラウス2世、モーツァルトの顔のイラストが描かれています。

Music Program TOKYO
Workshop Workshop! コンビビアル・プロジェクト

**東京文化会館 リラックス・パフォーマンス
世代、障害をこえて楽しめるコンサート**

実施日 2025年(令和7年)6月7日(土曜日)
時間 午後2時から午後3時まで、休憩なし
会場 東京文化会館 大ホール

東京文化会館リラックス・パフォーマンスへようこそ！ コンサート中の過ごし方

リラックス・パフォーマンスの「リラックス」は“寛容な”という意味。少し音をたてても、からだが動いても、大丈夫。発達障害や自閉症などでホールでの音楽鑑賞に不安がある方も、聞こえない方や聞こえにくい方も、一緒に音楽を楽しめるように、様々な工夫をしています。たとえば…

1. 客席の照明を完全に暗くしません。
2. 手話通訳があります。
3. 上演中に休憩が必要になった場合は、客席の外に出て休憩できます。途中で席に戻ることもできます。
4. 席に戻りづらい場合や、一時的に席を移動したい場合などにお座りいただけるフリーエリアがあります。
5. 聞こえない、聞こえにくい方向けに、手話通訳や、聴覚サポート席[ヒアリンググループ、音を振動に変換する機器(タッチ・ザ・サウンド・ピクニック)、字幕タブレット]があります。
6. 見えない、見えにくい方向けに、点字・拡大文字・白黒反転での曲目リスト、視覚サポート席[レーザ網膜投影視覚支援機器(レティッサ オン ハンド)]があります。
7. イヤーマフの貸し出し、カームダウンスペースがあります。

お客様へのお願い

1. 客席では食べたり飲んだりできません。
2. 携帯電話やアラーム付き腕時計などは音の出ない設定にしましょう。
3. 公演の写真撮影、録音、録画はできません。

コンサートを楽しむために

1. コンサートが始まる前にトイレに行っておきましょう。

どうしてもトイレに行きたくなったら、他の人のじゃまにならないように、そーっと行きましょう。

2. 演奏している間は座りましょう。

立ち上がると、後ろの人が見られなくなります。演奏の途中で休憩が必要になったら、そーっと客席の外に出ても大丈夫です。

3. ステキな演奏には拍手をしましょう。

演奏が終わった時に、たくさんの拍手をしましょう。

(コンサート中の過ごし方終わり)

プログラム

1. モーツァルト作曲
オペラ『フィガロの結婚』序曲
2. ヨハン・シュトラウス2世 作曲
ワルツ「春の声」 作品 410
3. ラフマニノフ作曲
ピアノ協奏曲第 2 番 ハ短調 作品18 より 第1楽章
【ピアノ】なかじま ひでかず
4. ドヴォルザーク作曲
スラブ舞曲第 1 番 ハ長調 作品 46-1
5. ドヴォルザーク作曲
交響曲第 9 番 ホ短調 作品 95「新世界より」より
第 4 楽章

(プログラム終わり)

出演

指揮：みつはし けいこ

ピアノ：なかじま ひでかず

管弦楽：東京フィルハーモニー交響楽団

ナビゲーター：さくらい しおり

（東京文化会館ワークショップ・リーダー）

ろうナビゲーター：

ササ・マリー

ユミコ・メアリー・カワイ

（出演者終わり）

曲目解説

今日のコンサートでは、元気なリズムや、流れるように美しいメロディーが登場する名曲を、オーケストラの演奏でたっぷりとお楽しみください。

1. モーツァルト作曲 オペラ『フィガロの結婚』序曲

オペラ(歌劇)とは歌で物語を進める劇ですが、その始めに「序曲」が演奏されます。オーケストラがワクワクするような音楽で、これから始まる物語を予感させます。モーツァルト(1756～1791)が作ったオペラ『フィガロの結婚』は、もうすぐ結婚をひかえたフィガロとスザンナ、そこに横入りしようとするズルい伯爵たちが登場する愉快な劇です。序曲は明るく元気いっぱいオーケストラの響きが広がります。

2. ヨハン・シュトラウス2世 作曲 ワルツ「春の声」

ワルツとは3拍子で軽やかに進む踊りの曲です。作曲者のヨハン・シュトラウス II 世(1825～1899)が活躍していたころのウィーンでは、人々が夜通し踊り続ける舞踏会が盛んで、ヨハン・シュトラウス II 世はワルツの傑作を次々と生み出し、「ワルツ王」と呼ばれました。この曲は、春の喜びに満ちたメロディーや心弾むリズムで満ちています。鳥の声のようなフルートの音色も聞こえます。

3. ラフマニノフ作曲

ピアノ協奏曲第 2 番 ハ短調 作品 18 より 第1楽章

【ピアノ】なかじま ひでかず

ラフマニノフ(1873~1943)はとても大きな手を持ち、ピアノが上手でした。彼が 28 歳で作った「ピアノ協奏曲第 2 番」は、思うように作曲ができず苦しかった時期を乗り越えて、元気を取り戻したラフマニノフの代表作です。ピアノが奏でる静かな和音で始まり、オーケストラがたっぷりとしたメロディーを奏で、胸を打つような力強い音楽へと発展していきます。

4. ドヴォルザーク作曲

スラブ舞曲第 1 番 ハ長調 作品 46-1

思わず踊りたくなるようなリズムカルなこの曲は、チェコの作曲家ドヴォルザーク(1841~1904)が作りました。もともとは二人で弾くピアノ連弾曲として作られ、楽譜が発売されると大ヒット！すぐにオーケストラ用にも編曲されました。この曲によって、ドヴォルザークの名は一気に広まりました。スラブとは、ヨーロッパの東部から中央部に暮らす人々や、その文化のことです。

5. ドヴォルザーク作曲

交響曲第 9 番 ホ短調 作品 95「新世界より」より 第 4 楽章

ドヴォルザークは 51 歳のとき、ニューヨークの音楽院の校長先生として招かれ、アメリカへ渡りました。この曲はその頃に書かれたもので、「新世界」とはアメリカのことなのです。ところでドヴォルザークは、鉄道オタクでした！列車の種類や時刻表を丸暗記していたそうです。この曲は、ゆ

っくりと蒸気機関車が動き出すように始まり、やがてホルンとトランペットが高らかにメロディーを奏で、大陸の情景を描き出すように進んでいきます。

(曲目解説終わり)

出演者プロフィール

指揮：みつはし けいこ

東京藝術大学及び同大学院を修了。ウィーンこくりつ音楽大学とキジアーナ音楽院に留学。小澤征爾、小林研一郎、ジェルメッティ、アッツェル、シュナイト、湯浅勇治、松尾葉子、高階正光の各氏に師事。第 10 回アントニオ・パドロッティ国際指揮者コンクールにて日本人として初優勝。併せて聴衆賞、パドロッティ協会賞を受賞し、最年少優勝で初の 3 冠に輝く。第 9 回アルトゥーロ・トスカニーニ国際指揮者コンクールで女性初の受賞者として準優勝。第 12 回齋藤秀雄メモリアル基金賞受賞。2009 年 Newsweek Japan 誌「世界が尊敬する日本人 100 人」に選出。N 響、読響、東京フィルをはじめ国内主要オーケストラとの共演を重ねる。趣味はクルーズ。一級小型船舶操縦士として航海に出ている。

ピアノ：なかじま ひでかず

第20回ピアノ部門第1位及び聴衆賞

第 20 回東京音楽コンクールピアノ部門にて第 1 位併せて聴衆賞受賞。名古屋市立菊里高等学校音楽科卒業後、桐朋学園大学音楽学部特待生を経て同大学ソリスト・ディプロマコース修了。これまでに飯塚麻希、小川公未、佐野翠、田崎悦子、若林顕の各氏に、室内楽を藤井一興氏、マスタークラスにてフィリップ・ジュジアーノ、ケヴィン・ケナー、シプリアン・カツァリス各氏他に師事。第 67 回全日本学生音楽コンクール名古屋大会や、第 20 回コンセール・マロニエ 21 ピアノ部門にて第 2 位、第7回桐朋ピアノ・コンペティション第1位受賞。東京フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、パシフィックフィルハーモニア東京と共演、「ChildAid Asia」にて

東京及びシンガポール、マレーシア公演に出演。レパートリーはバロックから近現代まで幅広い。

管弦楽：東京フィルハーモニー交響楽団

1911 年創立。シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督チョン・ミョンフン、首席指揮者アンドレア・バッティストーニ、特別客演指揮者ミハイル・プレトニョフ。自主公演、新国立劇場他でのオペラ・バレエ演奏、NHK 他における放送演奏、海外公演等で注目を集める。Bunkamura オーチャードホールとフランチャイズ契約を締結。文京区、千葉市、軽井沢町、長岡市と事業提携を、刈谷市と連携協定を結んでいる。

ナビゲーター：さくらい しおり（東京文化会館ワークショップ・リーダー）

桐朋学園大学音楽学部卒業。2012 年に音楽ワークショップ・アーティスト「おとみつく」を発足し、これまで 500 公演を実施、延べ 4 万人以上が参加。国内のみならず海外での音楽フェスティバルやプロジェクトに出演。2024 年度に（一社）IROHAMO を設立し、アーティスト・ディレクターに就任。近年はオーケストラと共演し、子ども向け公演の司会も担当。（一財）地域創造音楽活性化事業コーディネーター。

（出演者プロフィール終わり）

東京文化会館の取り組みについて

東京文化会館ではあらゆる人が音楽で交流できる社会をめざしており、アートによる多元共生社会の実現に向けて、アートが持つ「創造性」「協調性」「参加性」を活かし、社会的課題に向き合いながら、人々の生活の質(QOL)の向上や共生社会実現につながる様々な取り組みを行っています。年齢や障害、社会的ハンディキャップのあるなしにかかわらず、あらゆる人々が音楽鑑賞や音楽創造体験に参加できる機会の提供や、多くの人々が新たな文化創造に主体的に関わることができる環境の整備に向けた取り組みを大切にしています。

Music Program TOKYO

世界的な芸術文化都市東京として、音楽文化の活性化を目指し、「創造性」と「参加性」を柱とした多様な事業を年間を通して一体的に展開する音楽プログラムです。クラシック音楽を基軸にしつつ、様々な分野のアーティストや文化施設等と連携して多彩な公演を実施する《Enjoy Concerts!》、海外の芸術機関や国内外の教育・社会福祉機関等と連携した《Workshop Workshop!》、そのほかの教育普及プログラムを《Music Education Program》として開催することで、東京の音楽文化に刺激を与え、世界に向け発信していきます。

(東京文化会館の取り組み終わり)

主催：東京都／東京文化会館（公益財団法人東京都歴史文化財団）

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業（劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業））

独立行政法人日本芸術文化振興会

一般財団法人地域創造

※本事業は、クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョーの一環で実施しています。